

よりよい教育環境づくりは土づくりから

8月26日 (株)大英組、中学校に堆肥を寄贈

(株)大英組(藤森英之社長 口宇波)は智頭中学校に「枯れ草堆肥」を30袋寄贈されました。これは草刈りで草をリサイクルし、堆肥にしたものです。中学校の奉仕作業で、花壇の土がやせているのに気づいた藤森さんが、学校の土づくりに役立ててほしいと寄贈されました。坂本校長は「日頃からPTAのみなさま、地域みなさまに協力いただき、感謝しています。子どもたちがより心安らぐ環境を作っていききたいと思えます」と感謝の思いを話してくださいました。これから、秋の種まきに向けて、枯れ草堆肥が入れられるとのこと。



ラブラブリー (富沢地区)

晴天の中、各地区で運動会開催

9月6日智頭小学校、智頭地区を除く5地区で運動会を開催

晴天に恵まれた今年の運動会。各地区でにぎやかに開催されました。小学生はこの日のために練習してきた成果を発揮し、地区のみなさんに披露。各地区では趣向をこらしたプログラムを考え、みなさんで盛り上がりました。山形地区では「婚活」(表紙写真)というプログラムも登場。子どもたちの選んだカードによっては、お父さんを説得したり、婚姻届に印鑑をもらったりしなければなりません。微笑ましいカップルがたくさん誕生しました。

米原大日堂の夏祭り

8月17日米原大日堂の夏祭り

米原集落には1701年に建立された米原大日堂があります。毎年旧暦の6月28日には「大日さんの夏祭り」としてお詣りをします。永い間、集落を護り続けていただいた大日堂を、これからも若い世代や集落外へも伝えて行くために、今年はお祭りを盛大に行いました。昨年6月からスタートした「米原大日ミニデイ」の事業の一環として、これまで11回開催したミニデイのゲストをお招きして約60人が参加しました。ミニデイ会員はもちろん大学生を含むボランティアが、焼き鳥や焼きそばなどの屋台でもてなしをしました。

米原集落始まって以来の行事でしたが、集落全員が集いこんな賑やかなお祭りが出来たのも、ミニデイを取り入れた成果でもあり、また大日様のお陰なのかも知れません。ミニデイを通じて変わりゆく米原集落の今後が楽しみです。



鳥大落語研究会の落語披露

なつかしい風景を写真に

9月4日~13日Ken-G&よるこ Photo二人展一思いのままー

ギャラリー風人洞で智頭町在住の川元憲一さんと鳥取市在住の右近美智子さんの写真展が開催されました。川元さんは主に板井原集落をモノクロ写真で撮影され、写真から漂うなつかしい香りが印象的です。また、右近さんは花の鮮やかな色彩が写真いっぱい広がる作品で、その香りや空気まで伝わってきます。川元さんは「昭和のなつかしい風景を撮っていききたい。写真からのそのなつかしさが伝わってくるものを撮りたい。智頭町を歩いて、いろいろな所を撮影したいですね」と話してくださいました。



どの国でも課題 防災への取り組みを話し合う

8月17日~19日 日英防災教育セミナー in 智頭~京都

山郷地区振興協議会では、活動の柱の1つとして防災に取り組んでいます。今回のセミナーにはイギリスの防災関係者12人、京都大学から10人、京都朱八自主防災から2人が参加し、山郷地区のみなさんと防災について、理解を深めました。各地の防災への取り組みや、もし山郷地区で災害が起こったらどうしたらよいか、また災害に備えるためには何をしたらよいかを検討しました。民泊での受入や地元の食材での温かいおもてなしに、「時差ボケで眠たくなる時間なのに、全く眠りたくない。すばらしい歓迎に感謝します」とイギリスから参加したスーザンさんが感激しておられました。



グランプリ受賞! チーム満天星

第45回鳥取しゃんしゃんまつりすずっこ踊りグランプリ

8月8日~9日に開催された鳥取しゃんしゃんまつりすずっこ踊りの部門で、チーム満天星がグランプリを受賞しました。チーム満天星がグランプリを受賞するのは初めて。平成18年から始まったすずっこ踊りですが、いつもオリジナルに挑戦されるチーム満天星のパワーと日々の練習の成果がしゃんしゃんまつりでも発揮されたようです。

五月田集落かんがえ地蔵まつりへ大勢の来場

8月22日五月田かんがえ地蔵まつり

日本1/0村おこし運動12年目を迎える五月田集落で今年も盛大にかんがえ地蔵まつりが開催されました。町内外から750人の来場があり、地域のみなさんの手踊りや、町内のゼロイチ参加集落のパザー、チーム満天星のよさこい踊りなど会場が盛り上がりました。祭りのフィナーレは打ち上げ花火で、間近に上がる花火を会場が一体となって観賞しました。



地域づくりの問題点と解決方法を

8月22日~23日「鳥取力」創造フォーラム in 智頭開催

いきいきと安心して充実した生活ができる地域を将来に残していくために、町民、町、企業、NPOなどが連携し、鳥取ならではの地域の底力を創っていくことを目的にフォーラムが開催されました。22日には、板井原、新田、芦津の3カ所で現地視察と意見交換会が行われました。寺谷町長、「ナニワのカリスマ添乗員」日本旅行平田進也さん、内子町の町並みをブランドに仕立てた岡田文淑さんがコーディネーターとなり、活発な意見交換となりました。23日のフォーラムでは、平井知事が



コーディネーターとなり、22日のコーディネーターに加え、養生の郷理事の岸本康子さん、商業活性化アドバイザーの杉谷第士郎さんをパネリストにパネルディスカッションが行われました。特産品の販売方法や、商店街の活性化など、それぞれの個性的な話や地域の活性化につながる話に参加者は興味をもって耳を傾けていました。